

わきざし 銘 應貫洞長章需盛岡住山内國多以巖鉄造之萬延元年二月日

指定種別：市指定文化財

指定日：昭和 55 年 3 月 28 日

所在地：個人蔵

制作年：萬延元(1860)年

寸法：刃長 37.3 cm 反り 0.9 cm

銘文：表 應貫洞長章需盛岡住山内國多以巖鉄造之
裏 萬延元年二月日



脇差の銘には「貫洞長章(瀬左衛門)のもとめに応じて、盛岡に住む山内國多が巖鉄をつかってこの刀を作った」という文字が彫られています。

この脇差は、山田の貫洞長章(瀬左衛門)が、大橋鉄鉦山洋式高炉の銑鉄を原料にして、盛岡の刀工「山内藤原國多」に鍛えさせたものであると考えられます。

重要な点は、この脇差の注文主「貫洞長章(瀬左衛門)」が大橋鉄鉦山の出資者であり、初代経営者であることで、「貫洞長章(瀬左衛門)」銑鉄銘「巖鉄」等の添銘資料は、近代鉄産業史上極めて貴重です。

また、同工作品 17 振 (刀 7 振、脇差 5 振、短刀 1 振、槍 4 筋) のうち、本刀の制作年代が最も古いものです。

